



VOL. 7 新原・奴山古墳群

日本の古墳で初めて世界文化遺産に登録された古墳群
その展望は一見の価値あり

玄界灘に面した南北8km、東西2kmの範囲に集中して築かれた古墳群を総称して津屋崎古墳群と呼んでいます。この津屋崎古墳群の中で最も古墳が集中しているのが、ユネスコ世界文化遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の構成資産である新原・奴山古墳群。かつての入海に面した台地上に、前方後円墳5基、円墳35基、方墳1基からなる計41基の古墳が点在しています。上から見ると鍵穴の形をした前方後円墳や、古墳の周囲を巡る溝などもかつての姿をとどめています。見晴らしの良い展望所にはボランティアガイドが常駐しているので、詳しい説明を聞いた後に散策するのもお勧めです。



▲春に菜の花、秋にコスモスが咲き乱れます



「福津三十六景」とは

市が誇る優れた景観や伝統的な祭りの風景などのこと。上の写真は、新原・奴山古墳群の展望所から古墳群を撮影したものです。福津三十六景の写真は広報ふくつや市公式ホームページでも募集しています。投稿よろしくお願ひします。

福津三十六景を訪れる際は、交通ルールを守るなど、マナーアップを心掛けましょう。